

（参考）

【ダイオキシンとは？】

一般に、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)及びコプラナーポリ塩化ビフェニルのような物質をダイオキシン類と呼んでいます。主な発生源は、ごみ焼却による燃焼ですが、日本全国の排出総量において平成23年には、平成9年と比べて約98%削減されています。また、本県(平成23年度)の環境中の環境基準は、河川水質3地点を除き、大気、水質、底質、地下水及び土壌の全ての地点において達成しています。

【環境基準等】

大気 年平均値 0.6pg TEQ/m³以下
水質 年平均値 1pg TEQ/L以下
底質 150pg TEQ/g以下
土壌 1000pg TEQ/g以下

【ダイオキシン類に使用される単位】

pg(ピコグラム) = 10⁻¹²g(1兆分の1グラム)

【ダイオキシン類全体の毒性の強さはTEQ(毒性等量)で表します】

多種のダイオキシン類の毒性をまとめて評価するために、最も毒性が強いものを1として他のダイオキシン類の毒性の強さを換算し、総和したものの。

【ダイオキシン類の耐容一日摂取量：4pg-TEQ/kg/日】

人が生涯にわたり摂取しても健康に影響をおよぼすおそれがないとされる体重1kg当たりの一日の摂取量。私たちが体内に取り込んでいるダイオキシン類の総量の安全性の評価は、この数値との比較により行います。

【無色で水に溶けにくい性質があります】

ダイオキシン類は、通常は無色の固体で、水に溶けにくく、蒸発しにくい反面、脂肪などには溶けやすいという性質を持っています。

【ごみ焼却のほか、様々な発生源から副生成物として発生します】

ダイオキシン類は分析のための標準品の作製などの研究目的で作られる以外には、意図的に作られることはありません。

【通常の生活の中で摂取する量では急性毒性は生じません】

ダイオキシン類は意図的に作られる物質ではなく、実際に環境中や食品中に含まれる量は超微量ですので、私たちが日常の生活の中で摂取する量により急性毒性が生じることはないと考えられます。

参考資料

- ・「ダイオキシン類2012（関係省庁共通パンフレット）」
（環境省水・大気環境局総務課ダイオキシン対策室）
- ・「ダイオキシン類の排出量の目録（排出インベントリー）」
（平成25年3月 環境省）